

白門四八会

中央大学学員会白門48会会報24号
(題字：故 中央大学総長 高木友之助先生)

24

発行日：平成28年5月12日
発行人：山口隆司
発行所：中央大学学員会白門48会
東京都千代田区神田駿河台3-11-5
中央大学駿河台記念館学員会事務局
TEL：03-3219-6175
印刷所：(株)ディスカバリー

中央大学の将来像 「中長期事業計画 Chuo Vision 2025」 を策定

中央大学総長・学長

酒井正三郎



はじめに

白門四八会のみなさまには、日頃より中央大学に対しまして、暖かいご支援を賜っておりますことに、大学関係者を代表いたしまして厚く御礼申し上げます。また、この度は会報に寄稿の機会をいただき、まことにありがとうございます。

この機会に、現在大学が「オー

熊本地震に遭われた会員ならびに被災された皆様に謹んでお見舞申し上げます。

ル中央」の体制のもと、もつとも力を入れて取り組んでいる「中央大学中長期事業計画 Chuo Vision 2025」について、計画の概要や趣旨を紹介させていただくこととし、あらためて同期生のみなさまのご理解とご協力をお願いする次第です。

1. 世界に存在感のある大学を目指して

二〇一五年度に創立一三〇周年を迎えた本学は、建学の精神に基づいて本学のMissionおよびVisionを明確にし、二〇一六年度を起点として、二〇二五年度までの一〇年間に重点的に取り組むべき課題として、以下の改革基本方針を策定しました。以下、主要な柱について説明いたします。

2. 教育組織の改編・創設

現代社会が直面している新たな課題に因應するため、大学の教育研究体制を再編し、より充実した総合大学を目指します。

(1) ICT系、メディア表現系、多言語多文化系などの複数の学部の新設を目指します。これらは、比較的親和性の高い総合政策学部を発展的に改組することによって実現するものとなります。

(2) 高齢化や福祉など地域社会が

抱える課題を解決するための政策形成やマネジメント、生涯スポーツを通じた健康づくり、スポーツ振興等に関する教育研究を行う新学部の創設を目指します。

3. キャンパス整備

都心に複数あるキャンパスを後楽園キャンパスに集約することにより、多摩と後楽園の二大キャンパス体制を構築し、充実・発展を目指します。

(1) 多摩キャンパスについては自然環境を活かし、施設・設備を一層充実させてグローバル・キャンパスとしての特色を強化します。国際寮を充実させ、外国人留学生が安心して留学できる環境を整備します。

(2) 都心にある複数のキャンパスを後楽園キャンパスに集約するとともに、多摩の文系学部の一部を移転して文理双方の教育研究を展開します。移転の第一候補を法学部とし、法科大学院と一体的に配置し、「Law & Law」による教育効果の最大化を実現します。都心キャンパス整備は二〇二二年度の完成を目指します。

4. グローバル戦略

世界に存在感のある大学を目指し、種々の改革を推進します。

(1) すべての科目を英語等で教えるグローバルFLP (Faculty-Linkage Program) や国際共同学位、国際共同研究ネットワークの構築など、国際通用性の涵養と専門分野の学修を両立させるカリキュラムの構築を目指します。

(2) 学生の海外派遣については、学期制度の見直し、奨学金制度の充実、帰国学生のキャリア支援等を通じて、一〇年後までに達成する目標値を年間二、二〇〇人とします。

(3) 留学生受け入れについては、英語で修了できるコースの設置、国際寮や奨学金制度の整備充実などにより、留学生支援を広く推進し、一〇年後までに達成する目標値を一、〇〇〇人とします。

(4) 教員構成の国際化については、一〇年後までに外国人教員が全専任教員の一〇%、外国の大学で学位を取得した日本人教員を含めて大学全体として二五%となることを目指します。

5. スポーツ振興事業

学生スポーツ選手の育成・強化により、実績の向上とスポーツに関する伝統の維持・発展の両面を重視し、大学としてスポーツ振興を図るための独自の施策を展開します。

会長挨拶

会長就任二年を迎えて



白門48会会長 山口 隆

方と話をしますと、「四八会はすごいねー」とよく言われます。何かといえば、この四八会のメンバーの中から中央大学の総長、学長はじめ、常任理事、さらに国務大臣までが輩出されているということなのです。

四八会の皆様お元気で過ごしてはいかがでしょうか。四八会会長の山口でございます。一昨年の総会で会長を拝命してから早二年を迎えようとしております。つたないながら皆様のご協力での一年もいろいろな集まりや催しを行うことができたこと、深く感謝いたします。

最近、年次のOBの会で先輩方のご発声で久々懐かしい面々と乾杯をして、今年の幕開けとなりました。

一〇〇mの素晴らしい眺望が魅力のホテルです。是非たくさんの方にお集まりいただき、親交を深めていただければと思います。迷っておられる方は「とにかく一度行ってみよう！」精神で来てみてください。幹事一同お待ちしております。

また、ホームカミングデーは一月二三日(日)に開催されます。これはOBの祭典で、先輩から若いOBまで各年代の方がたくさん集まります。昨年は創立一三〇年の記念イベントでしたが、今年も大学側が一層力を入れてると聞いております。こちらにも是非お出でいただき、多摩校舎をご覧になってください。皆様とお会いできることを楽しみにしております。

ことを楽しみにしております。この一年の催しとしては恒例の「箱根駅伝予選会、本戦応援」、「ハイキング」、「下町ぶらり旅」、「新年会」、「花見会」、「中大スポーツ応援」、「他支部との交流」などがあり、定期的に行っている「合唱」、「ボート」などを含めると多岐にわたっております。どれも初めての方大歓迎で、必ずやメンバーが暖かく迎えてくれると思いますので、是非積極的なご参加をお願いいたします。

最後になりますが、我々は何んと言っても健康が一番です。皆さんのご健勝を祈念して挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

48会行事

平成二八年新年会を開催

白門48会幹事長 佐藤 愛子
(文：八王子市)

グローバル化が進む現代社会はますます複雑化の様相を強めており、その問題を解決するのはやはり人であり、その人を育成するのは大学を含めた教育機関です。「中長期事業計画(Chuo Vision 2025)」に取り組むことにより、社会からの要請に一層応えていきたいと考えています。

注)中長期事業計画の骨子の説明は、中央大学のパンフレット「Chuo Vision 2025」を参照してください。

平成二八年一月二〇日、一八時半から新宿中村屋八階レストラン「グランド」で、酒井正三郎総長学長、林勘市常任理事はじめ二九名の参加者で、盛大かつ和やかに恒例の新年会が開催されました。

山口会長の挨拶後、酒井総長から中央大学中長期計画を含めたご挨拶があり、林常任理事

日頃から様々な会合に出られ平均睡眠時間が四時間という激務をこなしていらっしゃる酒井さんは、三〇分近く前に来店され、旧友との再会をとっても楽しみにしていた様子が覗えました。またこの日は久々に、ホームカミングデーのカレーシヨップでお世話になっている中村屋専務取締役の小林政志さんが出席されました。新社屋になってからの素敵なレストランで、中村屋オリジナルな美味しいお料理とワインでテーブルごとに会話も弾んでいきました。



日本山岳会会長の就任挨拶

学会 大学

ホームカミングデー

中央大学常任理事

林 勘 市
(ホームカミングデー実行委員長)

48会 行事



開会の挨拶をする林常任理事

昨年一〇月二五日開催の第二回ホームカミングデーは、創立一三〇周年を祝い、「創立一三〇周年を起点に輝く未来を創造しよう」をコンセプトに、盛り沢山な特別企画を用意して、参加人数五、〇〇〇人(前年二、五〇〇人)を目標にしたところ、当日は晴天にも恵まれ、来場者四、四〇〇人と大変盛況でした。担当責任者として厚く御礼申し上げます。

大学からは中長期事業計画「中央ビジョン2025」の大綱発表、学会からは記念論文コンテスト「中央大学の未来へ」私の提言」(賞金総額一三〇万円)の結果発表・表彰、中央大学とオリンピック(歴代メダリストの写真パネルを展示



同時開催のクロスカントリーコース完成祝賀式でのテープカット

する中、遠藤オリンピック担当大臣挨拶、秋山東京都副知事、木村日本バレーボール協会会長の講演)等の特別企画のほか、親子三代卒業生表彰、中央の絆(新年次支部結成宣言と支部旗贈呈)、本学理工学部の山田教授と石川教授の対談「東京が動く」白門力で東京再生を」寄席、親子企画等の各種イベントを実施。先着一、〇〇〇名に記念クオカードプレゼント、軽自動車二台はじめ豪華景品が多数当たる福引抽選会も行い、学会から寄贈されたイルミネーション点灯式で終了しました。全国から集った老若男女の会員やご家族は、充実した施設と緑あふれる広大な多摩キャンパスの魅力に感嘆し、多彩なイベントを存分に楽しまれたことで

しよう。また、理事長から発表された、法学部の都心移転を目玉とする「中長期事業計画」の内容にどよめき、これを肯定的に受け入れ、ブランド力のV字回復をめざす中央大学の輝く未来に思いを馳せ、熱く語られたことでしょう。

特に、同期生の四八会の皆さんには、出店で名物カレーの販売をいただいたのははじめて、毎年、多大なご支援、ご協力をいただき、ありがとうございました。やはり、「白門」でつながる全国五五万学員の絆の強さ、家族的情味は、何ものにも代え難く、ありがたいですね。本当に大切にしていきたいと思えます。

「中央を超える中央へはばたけ!中央ビジョン2025」

—ホームカミングデーに熱く語り—
—全国会員が結集—

の南海誠氏の講演、白門駅伝大会をはじめ、魅力ある企画を検討中です。今年も皆さまのご協力をよろしくお願いします。

さて、本年の第二五回中央大学ホームカミングデーは一〇月二三日(日)に開催します。今年のコンセプトは、上欄に掲げたこの課題のとおりです。さらに来場者の増加をめざし、人気アニメ映画監督

もなれるが、日本山岳会会長にはなりたくてもなれない世界的にも凄いことなんですよ」というお褒めの言葉や、小林さんからの「先日は山岳会会合で皇太子さまと隣り合わせの席になり大変緊張しました」というお話などを聞いて、皆さんから賞賛の声が湧き起こりました。

最近他支部の先輩方から、四八会は勢いがあるね、と言われることが多くなりました。前述の方々のほかに、今回はご多忙で参加されなかった遠藤利明五輪担当大臣も会員としていらっしやいます。それらの方々のご苦勞を考えると、「前期高齢者に突入したとたんエネ



熱気あふれる48会新年会

白門48会2016年度上半期(2016・4~2016・9)の予定

- 4月6日(水) ゴルフ同好会主催コンペ
- 4月12日(火) 第116回幹事会 駿河台記念館350号室
- 4月12日~5月18日 東都大学野球春季リーグ戦 応援(同好会)
- (5月3日(祝) 48会 総合応援)
- 4月30日(土) グリーンレガッタ出場選手あり 応援
- 5月12日(木) 第117回幹事会 駿河台記念館715号室
- 6月18日(土) 17時半~ 第18回総会・懇親会開催 新宿小田急センチュリーサザンタワー21階
- 6月26日(日) 全日本大学駅伝予選会 応援
- 7月9日(土) ぶらり散策横須賀軍港めぐり
- 7月12日(火) 拡大二役会(新旧役員引き継ぎほか) 場所未定
- 9月9日(金)~10日(土) ミニ温泉旅 秩父の温泉宿泊

*その他、グルメ会、花火見物など企画多数。決定後、予定詳細はHP&総会時に発表。

ルギーが減少した」と嘆いていてはと思い返しました。新年会の後は、林氏をはじめ一〇名位が時間も忘れて二次会まで流れて行ったそう。結構皆さん元気があって安心しました。仲間とはいいいものですね。

飛鳥山のお花見で国際交流

三 森 孝 悦
(理工:所沢市)

恒例の白門四八会お花見会は三月二六日に、心満開・花三分咲きの中、昨年と同じ東京都北区飛鳥山公園にて開催されました。

この飛鳥山公園は、ご存じの方もいらっしゃると思いますが、

地方支部だより

九州支部
度々の有志懇親会

橋 本 博
(経:宮崎市)

夏季懇親会開催

平成二七年八月四日一八時半から、宮崎市の「つちや」で、一三名の参加により宮崎四八会を主体に学員有志懇親会を開きました。会員の近況報告と中央大学の近況報告を兼ねての開催でした。

この回は、会員の母校高校が夏の甲子園出場の栄誉を勝ち取り、参加者は大きな拍手でお祝いをいたしました。宮崎日本大学高等学校は野球部坂田君の母校です。九州学院高等学校はラ



夏季懇親会にて(左が筆者)

徳川將軍「吉宗」が享保の改革の一環として造成をし、庶民が安心して花見ができる場所として設け、吉宗自ら飛鳥山に宴席を設けてアピールを行ったという、由緒ある場所です。

この由緒ある人気の場所を、グビー部中熊君の母校です。どちらも県内激戦区を勝ち抜いた強豪校であることは間違いありません。甲子園での活躍を期待しました。

宮崎四八会会員を主体としたこの懇親会は、運動部の後輩や転動してきた中央大学卒業生企業人を歓迎し、同窓会員として早く地元へ馴染み、良い活動ができるように働きかけも行います。この回は、硬式野球部の優勝を逃した残念会、箱根駅伝で

当日朝早くから宴席として確保するために、地元の国領さんおよび山口会長が尽力してくれました。さらに地元とは言え、国領さんの奥さんからの心のこもった美味しい料理のご提供もあり、皆唯々感謝するばかりでした。

手作り料理をつまみに、宴が盛り上がりつつ、ハプニングがありました。場所の目印に白門四八会の幟を掲げていたところ、中大卒の後輩がこれを見つけ、

の活躍を祈る会となりました。四八会の江藤君は一年次花の二区を走り、四年間主力として活躍した有名選手です。また、国武君は3回箱根を走り、実業団でも活躍した有名選手でもあります。

参加者の皆さんが母校中央大学のますますの活躍と発展を期待しています。

二八年第二回懇親会
ゴルフコンペを開催

平成二八年一月一五日、宮崎大淀カントリーにおいてゴルフコンペ、および懇親会を行いました。参加者は一一名、四八会員のほかに学員会員も参加しました。

この会は、年代を超えた学員会員が月に一度集い、母校中央大学について語り合う会です。

宴に加わり大いに懇親を図りました。

また、我々のスペースを少し貸してあげた隣の宴席の若者たちは、ほとんどが日本人ではありません。国際交流の場として、「国際交流研究会」小林裕代表が分け入りましたが、スウェーデン人やフランス人のメンバーなど多彩で、得意の英語だけでは不完全燃焼な場面もありました。ほかの会員たちも酔いに

特にこの日の話題は、運動部支援(宮崎県内高校生の進学について)の情報交換。有志の集まりですが、母校愛に燃え深夜まで話し合う姿に毎回感激します。

二八年第二回懇親会
野球部宮崎キャンプ支援

二月二七日は、一年目を迎える硬式野球部宮崎キャンプへの支援ならびにOBとの交流を目的とする懇親会を開催しました。四八会員が主となり、宮崎県白門関係者に声をかけ、懇親会参加を呼びかけています。

キャンプ中は連日惜しみない声援を送っていますが、そうした野球部への応援はもちろん、保護者、指導スタッフへの慰労を兼ねた懇親会を行います。全国のOBが集う公式野球部の総会も開催され、その支援も兼ね

らせてプロウクンでインターナショナル・コミュニケーションを図ろうという姿を見せましたが、まだ若々しいというべきか? ただの酔っ払いか? やはり、日本人桜を観る美しさは、心の美しさを反映させ、皆楽しい気持ちにさせてくれるものと思います。

二八年第三回懇親会
歓送迎会ゴルフコンペ

四月五日には、転動者の送別会・歓迎会を一六名参加で行いました。

毎月一回開催される宮崎県四八会への期待は大きく、白門支部の充実した活動に寄与した活動になっていきます。

懇親会は四八会に限らず、四七会、四九会、五〇会や七〇歳を超える大先輩方の参加もあり、内容の充実した交流会が毎回実施されています。

遠藤大臣が宮崎を訪問されたときも、ラグビー部の卒業生がエスコートを依頼され、白門会が総力をあげ無事任務を果たしました。もちろんわれわれ四八会もしつかり支援しました。

《箱根駅伝応援同好会報告》
伝統を取り戻せ

内尾 裕 康
(経：八代市)

陸上部OBの内尾裕康です。四八会の皆様にはいつも箱根駅伝の応援をしていただき、OBの一人としてお礼申し上げます。

二〇一六年の箱根も、浦田監督を中心に後輩たちが必死に暗いトンネルを駆け抜けようと張りましたが、喜んでいただけような成績が得られず、監督、選手たちも歯がゆい思いでいっぱいだろうと思います。

今年はどうにか最低でもシード権獲得を、と期待しながら私も久しぶりに九州から応援に駆け付けましたが、今回もシード落ちとなってしまいました。非常に残念です。

競技終了後の報告会でも、OBとの懇親会でも叱責の嵐です。



5区大平台を走る小谷選手

わからないわけではありませんが、一番悔しい思いをしているのは監督、選手たちです。かつてのように、凄腕選手が潤沢にいた強い時代とは比較にならないほど選手層が薄くなっている今、「伝統を取り戻せ」「襷を繋げ」と言われても、選手には負担が大きくなるだけではないでしょうか。

皆さんと同じように、昭和四四年は私が中央大学に入学した年です。大学では学生運動が盛んで、学校は閉鎖中でした。

そしてその年は、わが陸上部が箱根駅伝で初めてシード落ちした年でもありました。当時、中央大学の栄光の歴史を知らない私はOBからシード落ちの叱責を受け、面喰いしました。田舎から出て来たばかりで箱根駅伝をよく知らない時、なぜそんなことを言われなければならぬか理解できなかつたことが記憶に蘇ります。

少し横道にそれますが、先日私の恩師が亡くなり、葬儀に行つた時に奥様から聞いた話があります。

恩師は九州学院陸上部の監督を後進に託す時「すべて自分の思うとおりにやれ。私は一切口を出さないから」と任せたそうです。しかし、新監督はある時、指導がうまくいかなくて困り、教えを請うてきたのです。それ

でも恩師は「自分で克服するよ」に」と助言を断りました。その後、新監督から一度も相談はなかつた、ということでした。

二〇一六年四月、中央大学駅伝監督が浦田氏から藤原氏に替わります。監督だけ替つても強くなるわけはありません。選手とスタッフが一体となって目標に向かって頑張ることが必要です。

結果が悪いからといって監督の力を信じて、口を出さず、彼の指導に任せましょう。われわれができることは、悪い時にはエールを送り、良い時は褒め上げるだけです。五区で往路優勝を勝ち取つた彼のことです。その根性とリーダーシップを信じて見守りましょう。

四八会の皆さんと、立川の予選会から本戦の箱根大平台へと、一緒に応援でき、また楽しい懇親会にも参加でき、有意義なひと時を過ごすことができました。ありがとうございます。

《国際交流同好会》
平成二七年度活動報告

小林 裕
(文：江戸川区)

九月二六日から一〇月一日までの六日間、アジア最大の仏教国スリランカ(旧セイロン)を

訪問した。九月二六日午後一時二〇分、成田発のスリランカ航空の直行便で、コロンボに向かう。同じ仏教国のためか、その飛行機はタイの国土真上を横切つて飛んでいた。現地時間午後七時頃、バンダラナイケ国際空港着。気温は二五度で蒸し暑かつた。すぐに現地ガイドの案内で、小型バスに乗る。車は暗闇の中を二時間程走つて、その日の宿バームヴィレッジホテルに着いた。

九月二七日、ホテルで朝食後、迎いのバスに乗り、他の四人の参加者と合流し、「世界遺産」アヌラダプラに向う。ここはスリランカで最初の王朝が築かれた場所で、仏陀が悟りを開いたとされるブツダガヤの菩提樹の分け木が植えられている。遺跡には、裸足になつて入つた。下の石が熱かつた。遺跡見学の後雷がなり、大雨となつた。スリランカは、雨期が近かつた。その大雨の中、バスは猛スピードで飛ばした。宿は、シギリヤビレッジホテルで、ボーイの案内で山道を二分ほど下つて、コテージ風の独立した部屋に着いた。ホテルのレストランで夕食を取る。

九月二八日、バスでシギリヤロックに向かう。シギリヤロックは、高さ二〇〇メートルの壮大な岩山である。広い平野の中



シギリヤロックを背景に象に乗る(筆者は右)

シギリヤロックは、切り立つた岩山で、その山頂に五世紀後半にその山頂にカーシャバ王によって立てられた王宮跡がある。二分程進むと、垂直な螺旋階段の下に着く。風が吹くたびに揺れる螺旋階段を二分程も登ると四畳半程の洞窟に着いた。その洞窟の壁に古代の美人、シギリヤレディが描かれている。さらに、五分ほど急なスロープ状の階段を登るとやっと山頂に着く。驚くことに、その山頂に玉座跡や水浴場のあとがあつた。平野の真ん中なので景色は、雄大ですばらしかつた。次に「世界遺産」ボロンナルワの遺跡を見て、シギリヤビレッジホテルに戻る。夜中に現地のテレビを見ている

と、男性歌手が「シンハラ、シンハラ」と何度も唱えていた。聞いていられるうちにその歌が日本の演歌に聞こえ、違和感がなかった。町には日本の三菱の車がたくさん走っていた。

九月二十九日、バスで、「世界遺産」タンブツラ石窟寺院を見学に行った。洞窟の中には、美しい仏像が数多く集められている。また、壁には一面にブツダの輪廻入滅の物語が鮮やかに描かれている。次に、スパイスガーデンと言う菓草園のような場所に行き、スリランカの様々な菓草や香辛料やアールユルベীদের話を聞く。次に、聖地キャンデーに向かい、劇場でキャンデーダンスと言う舞を見学した。それは、キャンデー王朝時代に宮廷で踊られていたダンスで、中心にスリランカ各地の民族舞踏を組み込んだもので、激しいドラムの音と共に幕が開く。女性ダンサーは色鮮やかな衣装で舞い、男性ダンサーは、アクロバットのような技を披露した。最後に、雨戸ほどもある大きな鉄板の上に砕いた炭を乗せたものが舞台の下に運び込まれ、その上に灯油のようなものをまき、炭が真っ赤に燃え盛ると、一人が灯油を口に含み、火吹き芸を披露し、舞台右下に設けられた祭壇にロウソクを灯し、手を合わせて祈りをささげると上半身

裸の男たちが裸足で火渡りの業を始めた。その後、仏蘭寺に行く。仏蘭寺は、キャンデー湖畔にあり、肌色の壁と八角形の屋根を持つシンハラ建築様式の建物である。寺院内に奉納されている仏蘭は、紀元前五四三年にインドのカリンガ王子が頭髪に隠してスリランカに持ち込み、国内をあちこち移動した後、最後にキャンデーに落ち着いたとのことだ。中には大きな仏像が三体並んで安置されており、真ん中に金色の仏像がある。その左右にやや小ぶりの白亜の仏像二体があり、右の仏像はタイから贈られたものだとする。やはり入り口で靴を脱いで裸足で見学した。

宿は、かなり険しい山の上にあるホテルトパーズ。そのため、美しい夜景を見ながら、バーでウィスキーを飲んだ。バーのマスターが気を使い、坂本九の「上を向いて歩こう」のレコードをかけてくれた。

九月三〇日朝、迎えるバスに乗り、ビンナラワ象の孤児院で小象にエサをやったり象と写真を撮り、象の群れが水浴びのため川へ向かい行進する姿も見た。象の目がとてもかわいらしかった。

その後、バスで空港へ向かい、

一〇月一日、無事帰国。今回は、比較的安全なベトナムかロシアを目指したい。

《学生スポーツ応援同好会報告》 ラグビー部激励会

金子健治
(法・杉並区)

二月二十六日に、第七回ラグビー部激励会を行いました。今回は、松田監督、酒井ヘッドコーチにもご参加いただき、大変盛り上がった会となりました。

監督・コーチからは本年度の方針や部の運営等興味深いお話をお聞きでき、浜岸主将、鎌野主務からはラグビー以外にも寮生活や学業等々、日常生活の面白い話もありました。

リーグ戦一部校、対抗戦Aグループの中でも一番少ない部員数ですが、その分監督・コーチの目も行き届き、また選手間の結束も堅く、外野から見ても本来に良いチームだと思います。



ラグビー部激励会参加者の皆さん

今季からは選手権出場校が減ることもあり、益々熾烈な戦いが続くものと思われませんが、昨季の三位以上の成績を残して、これを、参加者全員確信して散会しました。

《ハイキング同好会》

日和田山ハイクに参加して

堂原隆志
(理工：さいたま市)

二〇一五年九月二六日舉行。自分としては数年ぶりの参加となりました。

前日のもやもや天気も機嫌を直し、格好の山行日和です。集合場所の西武線高麗駅前は大変賑わっていました。近くの巾着田の彼岸花(曼珠沙華)も見頃としては最後の週末、ということもあつたようです。ハイキンググループも同年配のおじさん・おばさん中心のグループがたくさんありました。わが同好会グループもその一類であり、久しぶりの参加とあってなかなか合流できません。あちこちのグループをのぞき、まごまごしているうちに発見されて合流できました。総勢六人(山口・榎本・佐藤豊・小野塚・藤野・堂原)の参加となりました。

高麗駅一〇時頃の出発となりましたが、落伍者もなく一時頃には山頂に立つことができました

白門48会会長
山口隆司
090-5217-4081

白門48会幹事長 中央大学商議員 学員会常任幹事 年次支部協議会副代表(広報)
佐藤愛子
090-4098-7379

白門48会副幹事長 (株)ディスカバリー代表取締役
島崎修
080-5009-2466



日和田山山頂に立つ6人衆

した。初心者コースということもあり、順調に進みました。途中一カ所だけ、男坂・女坂で難易が分かれている箇所がありましたが、様々協議の結果やさしいような女坂で進むことを選択しました。展望が開けた神社の入口では、真下に広がる素晴らしい景色の中着田を一望できました。ほどなく頂上に到着、昼食となり、小一時間程で切り上げ無事下山できました。

登り下りの途中には藤野さんに勿体なくも珍しいチョコレートを種々差し入れていただきました。おかげさまで楽しく下山し、巾着田の入口まで来ても皆元気で、次のオプショナル案である宮沢湖温泉喜楽里行もあつてなく決定しました。案では高麗駅に戻り、飯能駅経由でバスを利用することになっていましたが、なおなお元気で巾着田を横切り徒歩で行くことに衆議一決

しました。

巾着田は入場料を徴収する「曼珠沙華祭り」の最中で、宮沢湖温泉へのコース入口がこの会場を通らなければ行けないことになっていました。五〇m先にコース入口に通じるドレミファ橋が見えています。入場料は三〇〇円。祭りは見学しないし、ちょっと先の橋まで行くだけなのに三〇〇円はないだろう。悶着が起こり、せめて半額にできないかと猛抗議しましたが、規則では如何ともしがたく、泣く泣く入場料を払い通過と相成りました。

そこから先は比較的容易に林の中を進みました。葉陰からゴルフ場のグリーンが見えたり、ポール除けの金網アーチを潜ったりしながら一時間歩き、宮沢湖畔に出ました。温泉到着は一四時頃でした。

途中参加の佐藤愛子さんとも合流し、一風呂浴びて下山祝賀会を開催する運びとなりました。無事の下山、完歩を祝し乾杯！おつまみにバイキングの料理を食し、しばし歓談の和やかな時間を過ごしました。

普段はさぼり、皆さんに非礼を繰り返す身ですが、久しぶりの参加にも拘わらず和気藹々と楽しいひと時を過ごさせていただきました。

あつという間に打ち上げとな

り、お互いの健康を気遣い次回の元気な再会を期待しつつ散会となりました。

開催企画にご尽力くださった役員の方々に感謝し、お礼を申し上げます。楽しい一日をありがとうございました。

《ボート同好会(仮)》
白門レガッタ二〇二五

榎 本 真 一

(文：横浜市)

白門レガッタとは、中央大学主催のボートレース大会のことです。ボートレースといっても競艇ではありません。四人一組となり、三〇〇メートルを午前と午後各一回ずつ漕ぎ、合計のタイムを競う純然たるスポーツです。

二〇一五年の白門レガッタは、一〇月一四日の土曜日、埼玉県戸田市の「戸田オリピックボートコース」で行われました。

この日は朝から生憎の雨模様。風も冷たく最悪のコンディション。戦意喪失となっても不思議はないのに、四八会チームはなぜかハイテンション。そのわけは、酒井総長学長がわが「チーム白門四八会Ⅱ」に乗艇されるからです。

一昨年の暮れに開催した「就任を祝う会」の席上、「白門レガッタに出たい」という総長学長の意向を知り、一年がかりで



酒井総長学長(左端)が乗った白門48会Ⅱ号艇

乗艇の道筋を探ってきたのですが、それが漸く実現したのです。この日、開会式で挨拶に立った総長学長は「四八会の仲間と乗る」と宣言し、選手宣誓のようなスピーチをしてくださいました。

これに燃えたチームメンバーは懸命の力漕、「チーム白門四八会Ⅰ(高子・小田・長谷川・山口)もⅡ(酒井・佐山・三森・榎本)も全力で戦い抜きました。ただし、Ⅱ艇三森三番漕手は前日に転倒捻挫し、この日は欠場するはめに。普段から指導を仰いでいる大先輩の千葉コーチに代理をお願いしました。酒井総長学長は、午後は他用がありとのことで、午前みのレースになりましたが、同漕の三艇を抑えて堂々の一位。もともと、午後は巻き返されませんが……。

成績はいまひとつでしたが、雨の中でも楽しめた白門レガッタでした。

白門48会常任幹事
中央大学商議員 学員会幹事
年次支部協議会大学支援委員長

小 田 真 一

Email: si_ma1982@yahoo.co.jp
090-6469-7737

白門48会常任幹事
東京江戸川支部副支部長
小林国際交流研究所代表

小 林 裕

〒132-0035
東京都江戸川区平井1-17-22
Tel&Fax 03-3636-1581

白門48会常任幹事
東京都知事(8)第46068号
株式会社エスディック代表取締役

佐 藤 豊

〒171-0022
東京都豊島区南池袋3-13-9-403
090-3516-2735

《グルメ同好会》
年末にふぐを食べる会

水野 勝敏
(商・横浜市)



ふぐとカニを楽しみました

《ゴルフ同好会》
春の定例コンペ

井沢 和夫
(商・横浜市)

四八会ゴルフ同好会は、毎年四月に春の定例コンペ、一〇月に一泊二日・二ラウンドの合宿コンペを行っています。

今回はその春の定例コンペで、四月六日に開催しました。場所は千葉県の『ザ・ナショナルカントリークラブ千葉』。(旧千葉廣済堂CC)。このコースは、かつて女子プロ・ツアーの『廣済堂レディース・カップ』が開催されていた名門コースです。

コース・レコードは飯島茜プロの六二。今回のコンペに参加したメンバーは、もちろん、このコース・レコードを目標にしました(注・ハーフ六二ですが)

今回の参加者は三組二二名。女性軍が川名さん・霧島さん・佐山さん(佐山夫人)の三名。男性軍が佐山同好会会長・山口



お花見ゴルフを楽しみました

四八会会長、白井さん・坂本さん・小口さん、鈴金さん・井上さん・水野さん、そして私井沢の九名でした。

このコースは、二人一組のカートでフェアウェイ乗り入れOKと快適なラウンドが楽しめます。また、この日は桜が満開で絶好のお花見ゴルフとなりました。

しかし、プレーの方は砲台グリーンが多く、谷あり、池あり、極端なドッグ・レググありのトリッキーなレイアウトに皆さん、

悩まされていきました。この混戦のなかで優勝したのは、ゲストの鈴金さんでした。優勝のほかにニヤピン・ドラゴン・四八会にちなんで第四位(井沢)と第八位(山口)にも賞品が授与されました。

なお、参加賞として全員に『食べられるゴルフボール(ホールインワン最中)』が配られました。今後この同好会コンペを続けていきますので、ぜひ多くの方の参加をお願いします。

前回好評だった「横浜野毛いとうや」でふぐを食べる会を、暮れも押し迫った一二月二五日に開催しました。

値段がちとはるので(酒代込で一萬二千円ほど)どうかと思いましたが、皆さん年に一回ぐらいはと奮発したようで、遠路はるばる横浜くんたりまで一五人も集まってくれました。

骨なしふぐちり、厚切りふぐ刺し、身の詰まった(なぜか)ズワイガニ、ふぐひれ酒、メのぞうすい、どれも好評で、紹介者としては大変うれしく思います。

先の話になりますが、今年の暮れもやりたいと思いますので、初めての方もぜひご参加ください。

会費納入についてのお願い

会員の皆様には「白門48会」の活動に格別のご高配をいただき、厚くお礼申し上げます。おかげさまで、白門48会は本年創立18年目を迎え、年間を通して全会員を対象にした各種同好会活動や定例懇親会活動を柱に、楽しく活発な活動を展開しております。

さて、会の財政運営は会員の皆様の会費によってまかなわれております。会費は、納入か否かにかかわらず、会員全員に会報・ホームページ・各種案内の送付などに使用されています。会費を原資に当会の運営がなされていることをご理解のうえ、会の円滑な運営のために、何卒会費納入にご協力くださるようお願い申し上げます。

会則により会費は1年3,000円で、これまでは「一括納入割引」を実施しておりましたが、昨今の会費納入率低下により、会全般の事業計画等の見直しを行わざるを得ない状況の中で、「一括納入割引制度」は昨年度をもちまして中止とさせていただきますことになりました。

昨年度までに一括割引制度でお振込された方は、振込まれた年度まで有効とさせていただきますので、その翌年からお振込くださいますようお願い申し上げます。

単年度のみのお振込になり、お手数をおかけし誠に恐縮ですが、事情ご賢察の上格段のご配慮をいただきたく何卒よろしく申し上げます。

幹事長/佐藤愛子

FAX: 042-679-3329

電話: 090-4098-7379

Email: ai-mimo.310.dm@amber.plala.or.jp

白門48会
連絡先

白門48会副会長
ボート部員
なみきみち社代表

榎本真一

090-3504-0985

白門48会副会長
箱根駅伝応援団員

水野勝敏

080-3690-8934

白門48会副会長
ゴルフ同好会代表

佐山洋一

090-7734-3890